

辺野古・大浦湾の | 山 | 川 | 海 |

# わすれたくない 海のこと

中村卓哉

Takuya Nakamura

7月14日(月)～26日(土)

霞が関ビルディングロビー階溜池側

ギャラリートーク  
&サイン会

参加無料

7月25日(金) 17:30～  
20:00

霞が関ビルディングロビー階溜池側

生物多様性の海、辺野古・大浦湾で撮影された作品の解説や撮影エピソードなどの他、著書の販売やサイン会などをおこないます。



一滴一滴の雨の中に、マングローブの葉の一枚一枚に、干潟に堆積した細かな砂粒に、その目には見えない命の連鎖を感じながら私は無我夢中でシャッターをきった。それは辺野古・大浦湾の豊潤な海を支える原点を辿る旅である。大浦湾の周囲を囲む広大な森が貯えた栄養豊富な雨水は、川となりやがて海に流れ込む。この山・川・海をつなぐ生命のサイクルは、幾重にも複雑に絡み合い多様な生物達を育んできたのである。

コメント

沖縄本島の東海岸北部の地域は、リゾート化されておらず手つかずの自然がそのまま残されています。私はこの豊かな山の栄養が造り出す海や川、干潟、マングローブに暮らす生き物達を10年以上撮影してきました。

プロフィール

中村卓哉(なかむら・たくや):1975年、東京都生まれ。10歳のときに沖縄ケラマ諸島でダイビングと出会い、海の虜になる。現在、フリーランスの水中カメラマンとして新聞や週刊誌などにコラムを掲載。講演や写真教室などの活動もおこなっている。主な著書に『わすれたくない海のこと 辺野古・大浦湾の山・川・海』(偕成社)『海の辞典』(雷鳥社)などがある。